【情報公開文書】

作成日2025年12月15日

受付番号： I2025-338
課題名：電子カルテから必要情報取得をローカルLLMを用いて実現する手法の検討

１．研究の対象
2000年1月から2027年3月までに東京科学大学病院呼吸器内科を受診した患者で年齢が18歳以上の方

２．研究期間
研究実施許可日～2027年3月31日

３．試料・情報の利用及び提供を開始する予定日
当院で試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。
利用開始予定日：　2026年1月13日
提供開始予定日：　該当なし

４．研究目的
・電子カルテを参照して任意の指示に対する出力を行うシステムを、ローカルLLM(Large Language Models, 大規模言語モデル)を用いて構築する。
・ChatGPTに対する指示の様に「サマリーを出力して」、「紹介状を書いて」、「患者の変化を教えて」など任意のオーダーに回答してくれるシステムがあると医療従事者の負担減に大きく貢献する。
・LLM(Large Language Models, 大規模言語モデル)とはChatGPTのように指示に応答してくれるシステムを指す。
・ローカルLLMとはChatGPTのようにデーターをインターネット経由でサーバーに送る事なく、施設内で構築したLLMで、外部に情報を出さないため診療情報など機密情報を扱うことができる。

５．研究方法
Personal Computer(PC)上にLLMサーバを構築する。該当患者さんのカルテ記載・サマリー・経時記録・レポート・病理システムを検索、抽出してデーターベースを構築する。LLMに指示を与えデーターベースを参照して出力させる。期待通りの出力を得るためにデーターベース構築の仕方を様々に変えて工夫を行う。

６．研究に用いる試料・情報の種類
カルテ記載・サマリー・経時記録・レポート・病理システム。

氏名や生年月日など個人が明らかに特定される情報は削除し、新たな研究番号を付与する。

７．外部への試料・情報の提供

該当なし

８．研究組織

本学単独研究

９．利益相反（企業等との利害関係）について

利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。本研究は大学からの研究費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。あなたには帰属しません。

１０．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

当院における照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
当院の研究責任者：東京科学大学病院 呼吸器内科　角　勇樹

１１．苦情窓口

東京科学大学　研究推進部研究基盤推進課　生命倫理グループ
03-5803-4547（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）